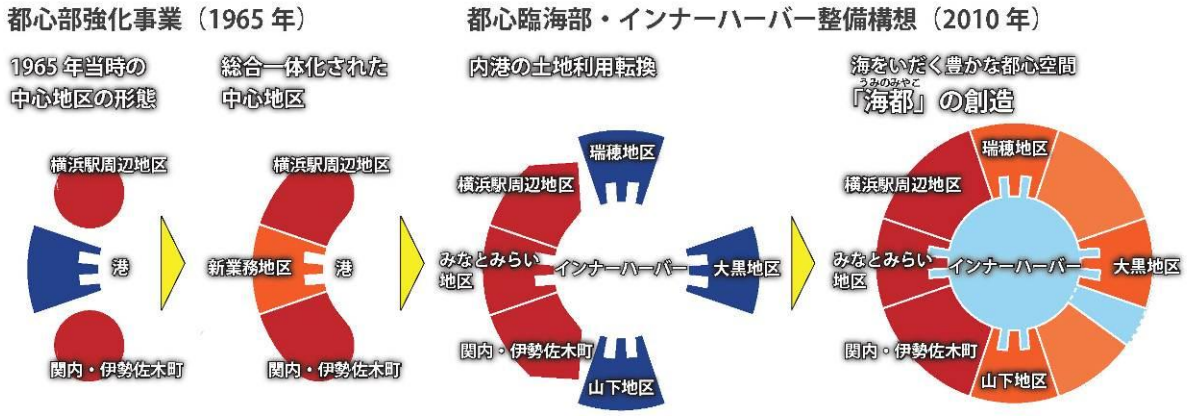
1-1　背景と位置づけ

横浜市はこれまで、開港以来の歴史や文化を生かした景観、港と市民が接することのできる水際線、緑や水辺などを生かした都市づくりを行い、多様で個性と魅力ある街を創ってきました。豊かな水・緑と歴史的建造物や先進的なまちづくりが織りなす景観は、横浜の特徴かつ最大の魅力であり、「横浜らしさ」の重要な要素となっています。とりわけ、都心部とベイブリッジに囲まれた内港地域は「港町ヨコハマ」の象徴であり、原点であるといえます。

この内港地域の将来構想について、平成 22 年3月に横浜市インナーハーバー検討委員会から「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言を受けました。この構想では、内港地域の理想的なまちの姿やそこで営まれる暮らしのイメージを多方面から検討し、5つの戦略として提案しています。横浜市ではこの提言を受け、今後行っていく政策や計画、事業の根幹としながら、内港地域の都市づくりを推進するとともに、平成 23 年3月に「都心臨海部・インナーハーバー整備構想　中期的取組方針」として取組内容を整理しました。



出典：都心臨海部・インナーハーバー整備構想　中期的取組方針（横浜市都市整備局）

この中期的取組方針の具体的な検討テーマとして、内港地域の美しい景観形成を進めることとし、内港地域における景観形成の考え方や、横浜港が世界に冠たる美港となるための課題、内港地域の特徴を生かし育てていくための方針、美しい港の景観を形成するために必要となることなどについて検討、整理してきました。また、全国的に見ても平成 17 年に国土交通省が「港湾景観形成ガイドライン」を策定するなど、「港の景観」が都市景観に対して占める役割は近年大きくなっているといえます。

港においては「海」と「空」と「船」が主役となり、建造物や緑、オープンスペースなどが生み出されて「港の景観」を形成しています。しかし、「景観」はハード的側面だけでなく、人が生活する、賑わう、働く、活動する、訪れる、楽しむ、好きになる、・・・といった様々な視点を内包しているものです。また「美しい」と感じるのはまさに「人」であるため、「美しい景観」とは「人の心の中に残る風景」といえます。

本構想は、これらの視点も踏まえて、「美しい港」をテーマに、内港地域の目指す景観の目標像や方針を「美しい港の景観形成構想」としてとりまとめたものです。今後はこの構想を踏まえて、新たに土地利用の転換などが行われる際の景観面からの検討や、現在行っている施策や取組の効果や課題の検証などを行い、美しい港の景観形成を推進していきます。

1-2　構成

本構想は以下の通り構成されています。

構想の位置づけ
本構想の位置づけや対象とするエリアを設定します。

▽

骨格・構造・景観要素
各地区の特性やこれまでの景観形成、景観を形成する要素などを整理する中で、エリアの特徴や課題、今後に向けた方針を明確にします。

▽

美しい港の景観形成方針
今後横浜市が美しい港の景観を守り育てていくためのテーマや視点を設定し、目指すべき目標像を明らかにします。

▽

美しい港の景観形成に向けた今後の展開
目標を達成するために今後取り組んでいく内容や、景観形成のテーマごとの配慮事項を示します。

1-3　対象エリア

本構想は、横浜港のうち都心臨海部と横浜ベイブリッジ、大黒ふ頭で囲まれた水域及びその周辺の陸域（内港地域）を対象としています。

出典：都心臨海部・インナーハーバー整備構想
中期的取組方針（横浜市都市整備局）